

的場議員（民主県政会）

令和4年12月12日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）コロナ禍における不登校と不登校傾向にある児童・生徒の実態と対応について

子ども達への「個別最適な学び」の保障でも重要である不登校対策に関して、コロナ禍における広島県内の不登校と不登校傾向にある児童・生徒の実態と対応について教育長に伺う。

（答）

本県の令和3年度の不登校児童生徒数は、

- ・ 小学校2, 062人,
- ・ 中学校3, 701人,
- ・ 高等学校1, 483人

の計7, 246人であり、前年度, 5, 653人の約1.3倍となっております。

不登校児童生徒の増加の背景を、国におきましては、コロナ禍が長期化したことによって、生活環境が変化し、生活リズムが乱れやすい状況にあったことや学校生活に様々な制限がある中、登校する意欲が湧きにくい状況にあったことなどが挙げられており、本県におきましても、同様の傾向が考えられるととらえております。

不登校等児童生徒への支援につきましては、コロナ禍への対応も念頭に、スペシャルサポートルームを設置した取組を進める学校への支援の拡充や、「SCHOOL“S”」の設置による、来室とオンラインの両面からの支援など多様な学びの場を提供する取組を進めているところでございます。

スペシャルサポートルームを利用した生徒からは、「スペシャルサポートルームが増えていく後輩たちとの関わりにわくわくしたり、行事をみんなで楽しんだりと最も充実した1年間でした。」といった声を聞いており、その成果を感じているところでございます。

引き続き、児童生徒一人一人の様々な背景を踏まえ、その状況に応じて、きめ細かに支援してまいります。